



## 矢尾次郎博士略歴・著作目録(矢尾次郎博士記念号)

**(Citation)**

国民経済雑誌, 142(4):151-157

**(Issue Date)**

1980-10

**(Resource Type)**

departmental bulletin paper

**(Version)**

Version of Record

**(JaLCOI)**

<https://doi.org/10.24546/00172545>

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00172545>



# 矢尾次郎博士略歴・著作目録

## 略 歴

- 大正 5 年 5 月 24 日 福井市に生まれる
- 昭 和 9 年 3 月 福井市立福井商業学校卒業
- 昭 和 12 年 3 月 名古屋高等商業学校卒業
- 昭 和 15 年 3 月 神戸商業大学卒業（卒業論文「均衡理論と貨幣理論」）
- 昭 和 15 年 3 月 神戸商業大学助手
- 昭 和 19 年 6 月 大東亜研究所調査員
- 昭 和 19 年 10 月 神戸経済大学助手
- 昭 和 21 年 6 月 神戸経済大学助教授
- 昭 和 22 年 4 月 神戸経済大学経済研究所金融調査室調査員
- 昭 和 23 年 4 月 神戸経済大学専門部講師
- 昭 和 27 年 7 月 神戸大学神戸経済大学教授
- 昭 和 28 年 4 月 神戸大学教授（経済学部）  
神戸大学教授（経済経営研究所）併任（昭和52年3月まで）  
神戸大学神戸経済大学教授併任（昭和37年3月まで）
- 昭 和 29 年 12 月 教科用図書検定調査審議会（教科用図書検定調査分科審議会）調査員（昭和30年12月まで）
- 昭 和 35 年 3 月 文部省在外研究員として連合王国およびアメリカ合衆国へ出張（昭和36年7月まで）
- 昭 和 37 年 2 月 経済学博士（学位論文「貨幣的経済理論の研究——貨幣経済の構造と貨幣の作用——」）
- 昭 和 40 年 6 月 神戸大学評議員（昭和42年5月まで）
- 昭 和 42 年 6 月 金融学会理事
- 昭 和 45 年 6 月 神戸大学経済学部長事務取扱（昭和45年11月まで）  
神戸大学評議員（昭和47年11月まで）  
神戸大学大学院経済学研究科長（昭和47年11月まで）
- 昭 和 45 年 11 月 神戸大学経済学部長（昭和47年11月まで）
- 昭 和 47 年 1 月 日本学術会議第9期会員（昭和50年1月まで）
- 昭 和 48 年 3 月 アメリカ合衆国，連合王国，スイス，ギリシャ，タイおよびインド

ネシアの各国へ出張（昭和48年6月まで）

昭和50年10月 神戸大学附属図書館長（昭和53年10月まで）

神戸大学評議員（昭和53年10月まで）

昭和52年4月 神戸大学教授（経済経営研究所）兼任（昭和55年3月まで）

昭和53年10月 オーストラリア、ニュージーランドへ研修（昭和53年11月まで）

昭和54年5月 金融学会常任理事

昭和55年4月 神戸大学を定年により退官

昭和55年4月 神戸大学名誉教授

昭和55年4月 南山大学教授（経済学部）

また、この間に、神戸大学経済学部第二課程、海枝大学校、高知大学文理学部、大阪外国語大学、和歌山大学経済学部、久留米大学商学部、熊本大学法文学部、広島大学政経学部、同大学院経済学研究科などの非常勤講師をつとめた。

## 著 作 目 録

### — 著書・共編著・監訳書 —

- |   |   |          |
|---|---|----------|
| 物価理論の研究——貨幣作用の分析——  | 巖松堂書店   | 昭和25年9月  |
| 貨幣的経済理論の基本問題  | 千倉書房  | 昭和37年1月  |
| ——貨幣経済の構造と貨幣の作用——   |   |          |
| 金融政策入門（有斐閣双書）（川口慎二との共編）   | 有斐閣   | 昭和42年7月  |
| <i>Monetary Factors in Japanese Economic Growth</i> (ed.) (Kobe Economic & Business Research Series, No. 3) | Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University | 1970.    |
| 資金循環と国民経済（昭和47年度金融経済基礎コース No. 12）   | 全国地方銀行協会  | 昭和47年5月  |
| 金融政策入門〔新版〕（有斐閣双書）（川口慎二との共編）   | 有斐閣   | 昭和52年10月 |
| ベンジャミン・H・ベックハート著<br>米国連邦準備制度（監訳）  | 東洋経済新報社   | 昭和53年4月  |

### — 論文・資料・書評 —

- |                |               |         |
|----------------|---------------|---------|
| ドイツ公債技術の発展（資料） | 国民経済雑誌第70巻第4号 | 昭和16年4月 |
| ケインズ乗数理論について   | 国民経済雑誌第72巻第1号 | 昭和17年1月 |
| ——ケインズ研究その——   |               |         |

貨幣と利子（其一） ——ケインズ研究その二——	国民経済雑誌第72巻第4号	昭和17年4月
貨幣と利子（其二） ——ケインズ研究その二——	国民経済雑誌第72巻第5号	昭和17年5月
財の世界と貨幣の世界	国民経済雑誌第76巻第3号	昭和19年3月
貨幣的利子理論の諸類型	国民経済雑誌第81巻第1号	昭和25年1月
物価理論の展開	銀行及金融第2号	昭和25年1月
貨幣観と貨幣作用分析の型	季刊理論経済学第2巻第2号	昭和26年4月号
貨幣政策と財政政策の所得拡張効果	バンキング48	昭和27年3月
所得流通速度の分析 ——貨幣需要の分析——	国際経済研究年報第2号	昭和27年3月
インフレーション理論におけるギャップ分析	国民経済雑誌第85巻第5号	昭和27年5月
インフレーションと貨幣の理論	季刊理論経済学第4巻第1号	昭和28年2月号
貨幣のヴェール性 ——実物的要因と貨幣的要因の関係——	国民経済雑誌第87巻第6号 〔金融学会編「金融論選集I」東洋経済新報社、昭和29年7月に再録〕	昭和28年6月
国民所得の循環的構造 ——Social Accounting——	「経済理論」（神戸経済大学創立五十周年記念論文集経済学編1）（同文館）	昭和28年7月
東南アジアのインフレーション	宮田喜代蔵編「アジア経済の現勢と日本」（東京森山書店）	昭和29年7月
ケインズの総供給関数	バンキング77	昭和29年8月
マルサスとケインズ	神戸大学経済学研究年報1	昭和30年3月
貨幣の価値尺度機能 ——リカードオによせて——	国民経済雑誌第91巻第4号	昭和30年4月
乗数と所得流通速度	バンキング93	昭和30年12月
貨幣の復活	国民経済雑誌第94巻第2号	昭和31年8月
資本蓄積の金融的側面	バンキング107	昭和32年2月
スウェーデンの銀行制度	高垣寅次郎監修・大蔵省銀行局金融制度調査室編「欧	昭和32年3月

- 米諸国の金融制度 (下)  
英国北欧その他篇」(大蔵  
財務協会)
- 田中金司先生の学問 国民経済雑誌第96巻第5号 昭和32年11月  
(田中金司博士記念号)
- 貨幣の中立性 宮田喜代蔵博士還暦記念論 昭和33年5月  
——貨幣的経済理論の出発点—— 文集刊行会編「貨幣経済と  
経済構造——宮田喜代蔵博  
士還暦記念論文集——」(同  
文館)
- 貨幣経済の把握方法 国民経済雑誌第98巻第3号 昭和33年9月  
インドネシアの銀行制度 高垣寅次郎監修・大蔵省銀 昭和33年11月  
行局金融制度調査室編「東  
南アジアの金融制度」(大  
蔵財務協会)
- 貨幣作用の分析——「一般理論」以後の 国民経済雑誌第99巻第1号 昭和34年1月  
貨幣的経済理論の問題点——
- 資本蓄積の金融分析方式 バンキング134 昭和34年5月
- 貨幣的経済理論の展開 神戸大学経済学研究年報6 昭和34年7月  
——貨幣作用分析の観点から——
- マネー・イリュージョン 国民経済雑誌第100巻第5号 昭和34年11月  
——貨幣作用の根拠分析の一節——
- ケインズの貨幣経済観 国際経済研究年報第10号記 昭和35年1月  
——貨幣経済観研究の一節—— 念号
- ふたつの金融政策観 国民経済雑誌第105巻第6 昭和37年6月  
——金融政策の攻撃目標—— 号〔金融学会編「金融論選  
集X」, 東洋経済新報社, 昭  
和38年11月に再録〕
- 通貨と資金フロー バンキング173 昭和37年8月  
——成長通貨供給論の反省——
- 金融資産の選択 国民経済雑誌第108巻第5号 昭和38年11月
- 公開市場政策と支払準備率政策 バンキング189 昭和38年12月  
——アッシュハイム分析の再構成——
- いわゆる貨幣側の意味するもの 「金融研究」(神戸大学金 昭和40年1月  
——貨幣・資金・金融資産—— 融研究叢書第1冊)

- |  |  |                    |
|--|--|--------------------|
| 現代金融理論の論理構造                                      | 川口 弘・川合一郎編「金融論講座第2巻 現代の金融理論」(有斐閣)        | 昭和40年1月            |
| 金融構造の意味  | バンキング205                                 | 昭和40年4月            |
| 金融論の現代的展開(1)——最近の諸問題をめぐって——第一講 金融論的な見方           | 月刊金融ジャーナル第6巻第12号                         | 昭和40年12月           |
| 金融論の現代的展開(2)第二講 貨幣経済の構造——資金フロー分析——               | 月刊金融ジャーナル第7巻第1号                          | 昭和41年1月            |
| 金融論の現代的展開(3)第三講 金融資金フローの構造——金融構造とはなにか(その一)——     | 月刊金融ジャーナル第7巻第2号                          | 昭和41年2月            |
| イギリス植民地通貨の特質——香港ドルを事例として——                       | 「アジア経済の基本問題」(アジア経済研究叢書第6冊)(神戸大学経済経営研究所)  | 昭和41年2月            |
| 金融論の現代的展開(4)第四講 流動性ポジション——金融構造とはなにか(その二)——       | 月刊金融ジャーナル第7巻第3号                          | 昭和41年3月            |
| 金融乗数の諸問題   | 経済研究(一橋大学経済研究所)第17巻第3号(岩波書店)             | 昭和41年7月            |
| 所得乗数と金融的要因——所得分析と金融分析——                          | 国民経済雑誌第114巻第3号(新庄 博博士記念号)                | 昭和41年9月            |
| 貨幣制度(第2章)<br>金利(第6章)                             | 小泉 明編「金融論講義」(青林書院新社)                     | 昭和42年1月            |
| 貸付資金の形成<br>「銀行経営の実態調査」の結果に関する報告(則武保夫、藤田正寛との共同研究) | 国民経済雑誌第115巻第2号<br>「金融研究」(神戸大学金融研究叢書第2冊)  | 昭和42年2月<br>昭和42年3月 |
| 金融政策とは何か(第1章)                                    | 矢尾次郎・川口慎二編「金融政策入門」(有斐閣双書)(有斐閣)           | 昭和42年7月            |
| 物価問題の金融的側面——物価理論の金融的側面——                         | 金融学会編「金融学会報告XXVI——物価問題の金融的側面——」(東洋経済新報社) | 昭和42年11月           |
| マクロ・モデルと金融部門                                     | 国民経済雑誌第117巻第6号                           | 昭和43年6月            |

- |                                  |   |          |
|----------------------------------|---|----------|
| 物価上昇の基本的メカニズム                    | 神戸銀行調査月報  | 昭和44年1月  |
| 内橋吉朗氏著『利子理論——体系化の試み——』（書評）       | 経済学論究（関西学院大学経済学研究会）第22巻第4号                        | 昭和44年1月  |
| 物価と賃金                            | 消費者物価情報第3号（兵庫県庁）                                  | 昭和44年2月  |
| 金融経済論の視点                         | 「経済学研究のために」（神戸大学経済経営学会）                           | 昭和45年11月 |
| 円切上げのプラス・マイナス——物価問題への効果——        | 小泉 明・館童一郎編「円の實力」（日本放送出版協会）                        | 昭和45年12月 |
| 貨幣供給と銀行行動                        | 国民経済雑誌第126巻第4号（宮下忠雄博士記念号）                         | 昭和47年10月 |
| ポスト・ラドクリフの金融政策観                  | 田中金司先生喜寿記念論文集編集委員会編「現代金融論——田中金司先生喜寿記念論文集——」（千倉書房） | 昭和49年3月  |
| 金融経済論の課題                         | 「経済学研究のために」（増補改訂版）（神戸大学経済経営学会）                    | 昭和49年4月  |
| 貨幣と経済——貨幣作用の伝達機構——               | 則武保夫・藤田正寛編「現代金融論の新傾向——新庄博先生古稀記念論文集——」（東洋経済新報社）    | 昭和49年5月  |
| 金融政策の作用径路観の展開——流動性ポジションの理論——     | 国民経済雑誌第129巻第6号                                    | 昭和49年6月  |
| マネー・サプライと金融政策                    | 国民経済雑誌第132巻第5号                                    | 昭和50年11月 |
| 金融政策観の展開（第1章）                    | 矢尾次郎・川口慎二編「金融政策入門」【新版】（有斐閣双書）（有斐閣）                | 昭和52年10月 |
| 金融経済論の視点と課題                      | 「経済学研究のために」（増補改訂第二版）（神戸大学経済経営学会）                  | 昭和54年4月  |
| 貨幣本質論における金属主義と名目主義——「貨幣の生活理論」の立場 | 「研究遍歴」（宮田喜代蔵先生追悼論集）（宮田喜代蔵先生追悼論集編集委員会）             | 昭和54年7月  |
| 貸付資金説をめぐる一考察                     | 国民経済雑誌第140巻第6号                                    | 昭和54年12月 |

## — 欧文論文 —

- Money-Effect Routes — Revival of *Kobe University Economic Review*, 3 1957.  
 Money —
- A Survey of Development in Money-Effect Analysis *Kobe University Economic Review*, 5 1959.
- Japanese Financial Structure — I The Loanable-Funds Flow *The Bankers' Magazine* July 1967.
- Japanese Financial Structure — II The 'Over-Loan' Phenomenon *The Bankers' Magazine* August 1967.
- Japanese Banking Symposium: The Commercial Banks in Japan *The Bankers' Magazine* October 1967.
- The Commercial Banking and Mixed Banking Principles in Japan *Kobe University Economic Review*, 14 1968.
- Supply of Funds and Currency for Economic Growth — Characteristics of the Japanese Financial Structure — (Chapter 2) *Monetary Factors in 1970. Japanese Economic Growth*, edited by Jiro Yao, Research Institute for Economics & Business Administration, Kobe University
- The Report on Bank Management in Japan — A Research Study Based on the Results of the 'Questionnaire' — (Chapter 9) (Written with Yasuo Noritake and Masahiro Fujita)

なお、辞典〔体系金融大辞典（東洋経済新報社）、体系金融辞典（東洋経済新報社）、経済学大辞典（東洋経済新報社）、経済学辞典（岩波書店）、現代金融事典（春秋社）など〕、講演記録、随筆、時評などはこれを省略した。（瀧川好夫）